

令和5年度すくすく泉事業計画書（案）

1 運営理念等

【運営理念】

- 「保育」、「ひろば」を2本柱として、地域子どもたちが地域みんなに愛されて育つ場をつくります。
- 樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等の蔵書を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくります。
- 地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくります。
- 子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくりま

【令和5年度に力を入れて取り組みたいこと】

【ひろば・一時預かり】

- ・安心して気軽に立ち寄れるハードルの低いひろばを継続。新型コロナウイルス感染症の状況と、利用者の活動状況をみて、できることから緩和の方向に向かいたい。
- ・他施設、他機関との連携を深めて、的確なサポートにつなげていく。
- ・父親の育児参加はもちろん、家族単位での子育て仲間づくりを意識して、プログラムを考える。
- ・日常のひろばに発達をテーマにしたプログラムを加える「すくすくタイム」は継続して行い、子どもの発達についての知識を、スタッフも利用者もみんなでもつことで、インクルーシブな場を目指す。
- ・引き続き、地域防災の意識を高める取り組みをする。（例：月1のTomonyの中にコーナーを設け、継続的に話題にのせていく）
- ・「はじめてのひろば」の利用をきっかけに、市内のひろば利用への第一歩を踏み出しやすくする。
- ・現行のオンラインひろばを、オンライン相談に利用目的を絞り、相談室のないひろばを補うコンテンツにする。
- ・一時預かりについては、引き続き、親子が安心して利用できるように研修を重ね、スタッフの質向上を目指す。また、預かりを通して知り得た親子の状況については、秘密保持を原則としながら、適切に情報共有し対応する。
- ・今までやってこなかったキャンセル待ちについて受ける態勢を整えたい。受け入れ人数を減らしたことで予約が取りにくくなっているため、予約の取りにくさをカバーできればと思っている。

【小規模保育事業】

- A型へ移行して2年目となり、常勤保育士5名と非常勤保育士でより安定した運営をする。給食スタッフの補充をはかる。
- 新規採用者も入った5人の常勤と非常勤保育者が情報共有をする機会を折に触れて作っていく。今まで通り10分ミーティングや研修、スタッフミーティングなどを活用し、どのスタッフがかかわっても子どもに合わせた保育ができるようにし、保育の質を確保した一体感のあるチームづくりをしていく。
- 昨年度の保育を活かして更に一人ひとりに合ったかかわりについて深めていく。
 - ・愛着関係の大切さを再認識した。どんな時も自分を受け止めてもらえる安心感を基盤に、感情の育ちと自我の拡大を保障し、体験の中で自ら気付くのを待つ長期的な見通しも大事にしていく。
 - ・子どもの気持ちに添って受け入れていくには、保育者と1対1でかかわってもらうことも必要な時がある。保育者の人数・時間・体力・心の余裕がないと対応できない。状況に合わせて、お互いに助け合えるような体制づくりをしていく。
 - ・子どもが自らやりたいことや場所を選び、やりきって満足して終わるまでの時間を確保し、見守れる体制をつくる。
 - ・異年齢集団の中でもそれぞれに応じた保育を実現するための環境づくりや保育者同士の連携など、空間や時間、環境の面からも更に工夫していきたい。特に室内環境については発達や状況に合わせて意図をもって構成し、子どもの動きをふりかえりながら深めていきたい。
 - ・児童票の発達の記録の内容を改良し、個々の発達をとらえる指標も取り入れたものにしていきたい。
- 研修の充実
今までの積み重ねを土台にして、引き続きアドバイザーの毎月の視察や会議、テーマをもった園内研修、またオンラインを活用してキャリアアップの研修や市主催の全体研修など外部に自ら学びに行く機会を今後も作り、学問と実践の両面から保育の質の向上をはかっていく。
- 保護者との信頼関係を結びながら多方面から支援する。
 - ・子どもとのかかわりに悩む保護者が多いので、保護者の気持ちに寄り添いながら、成長の過程や今後の見通しが持てるようにし、日々のかかわりについて一緒に考えながら子育てを支えていく。おたより、おうち文庫、園だより、講習会などでよい情報を得られるようにし、子どもの姿やその意味などについても知らせていきたい。
 - ・保護者が保育室の中に入って自然に子どもの様子を見たり、保護者同士がおしゃべりできるような日常を取り戻す方向に、状況を見ながら進んでいきたい。
- 仕事の見える化、効率化、ICT化をはかる。
 - ・システムを導入し、無理のない範囲から進めることで、仕事の効率化や情報のよりよい活用などをはかっていく。
 - ・必要感をもって会議や行事の企画、事務などをしていく。また、内容の見える化をはかって事務時間を確保すると共に、効率的に進めていくための工夫をしていく。
- 地域の子育てや小中学校との関係
 - ・保育とひろばが一体となった施設ならではの子育て支援を工夫しながら進めていく。低月齢児や妊婦対象の保育園体験、乳幼児とのふれあい体験などにより早期のひろば利用につなげていく。
 - ・中高生対象の職場体験は回を重ねてきたことで受け入れ体制も整ってきている。
 - ・小学生とは公園で場を共有する中からつながりがある。必要に応じて小学校とも連携していく。
 - ・卒園児が遊びにくる機会なども意識し、実家のように遊びに来ることができ、いろいろな地域の人ともつながれる機会をつくっていく。
- 近隣の園との連携
 - ・近隣の園とは、合同研修会などを通して、子育てを共に学び合う関係づくりをしたい。特にすくすく泉

公園での遊びでは、園の保育観も関係してくることを踏まえて連携を大事にしていきたい。

- ・コロナ禍で休止となっていたことも、可能なら徐々に再開したい。

【中長期目標】

●3 事業の連携で質を高める

小規模保育事業、一時預かり事業、地域子育て支援拠点事業がそれぞれ質の高い事業を展開すると共に、各事業の特色や良さを相互に活かして連携することで、更に利用者のニーズにあった内容を提供できるようにする。また、防災・防犯に関しては、3事業が利用者の命を守るために連携協力していく体制づくりを引き続き進めていく。

●多様な子育てに対応できる施設にする

一人親、ステップファミリー、祖父母育児、外国籍、身体及び精神疾患等、アレルギー疾患等を有する保護者や子ども、障がい児など特別な配慮を必要とする子どもなど、様々な家族の形や子育てがある。父親の育児参加、父親同士のコミュニケーションへのアプローチも含め、子どもへの支援や保護者への配慮など、それぞれのニーズに寄り添えるようにしていきたい。

●切れ目のない支援の一翼を担う

妊婦さんへのアプローチから始まり、乳幼児期にかかわった子どもたちが小・中学生になり、やがて自分たちが子どもを育てる側になっていく、その過程にずっと地域に存在し見守るセーフティーネット、言うなれば“実家”のような場所になることをイメージしている。

●地域全体で子育てするための連携

今までにつながってきた地域の様々な人的資源を大事にしながら、更に地域との連携を深める。

●育児参加促進

父親にも、母親同様のひろば機能を提供するために、子育ての知識を得る機会、地域コミュニケーションの機会、楽しい親子プログラム、敷居の低い相談の機会などをつくり、父親も自然に参加しやすいしくみをつくる。

●支援者同士の連携

近隣の子育てひろばや保育施設との連携に始まり、専門機関や行政との連携も含め、親子を真ん中にした支援者同士の連携を更に進める。

●運営体制の安定化と次世代へのつなぎ

支援を途切れさせないために長いスパンで安定的に運営していくことを目標に置く。そのために、現スタッフの理念を引き継ぐ次世代スタッフの確保と育成を進める。

●感染症の影響に対応する

5月連休明けからはコロナが5類に移行することを踏まえて、可能なところから緩和していく方針ではあるが、利用者が安心して過ごせる環境づくりは継続していく。コロナ禍での出産、育児により、人と人との対面でのかかわりの機会が減っている。それを踏まえての機会づくりや言葉かけ、相談対応などの保護者サポートをしていく。

2 事業内容

NO	項 目	内 容
1	地域子育て支援拠点事業について （「泉文庫」の管理・活用方法、公園を活用した展開等を含む）	<p>日常のひろば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴と情報共有を軸にし、利用者それぞれの状況や悩みなどに、スタッフみんなで気を配り、言葉かけや働きかけを考える。「技術を持ってホッとできる空気感をつくる」を常に意識し、研修や会議を重ねながら運営していく。 ・おもちゃ、環境の工夫、わらべうたや手遊びの時間帯を設けたり、季節を感じられるよう日常に変化をもたせる。工作コーナーは、親子が一緒に作ることで、季節や行事を楽しむきっかけづくりをする。 ・初めての親子も、スタッフとともに利用者也、みんなであたたかく迎え入れることを大切にする。 ・楽しくみんなで食べることを大切にし、子どもの食事やおやつを再開する。 ・利用者を“お客様”にせず、この場を一緒につくる仲間として意見を聞き、取り入れ、時には協力してもらう。 ・オンラインや公園側のデッキなどを活用し、コロナ禍でも、可能な限り、必要な講座や、楽しくホッとできる時間をつくっていく工夫をしたい。 ・父親が気負いなく楽しく利用するきっかけづくりプログラムと、日常的に受け入れる場をつくるよう意識して迎え入れる。 ・発達に不安があるなど、ひろばの利用をためらう親子も一緒に楽しめホッとできるひろばを目指す。 ・利用の年齢制限を撤廃し、いつでも遊びに来られるようにする。 ・同居家族の体調不良による利用制限を撤廃し、来所する親子が健康な状態なら受け入れる。 ・利用者と関わる中で必要に応じ各専門機関と繋ぐ。 <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期プログラム <ul style="list-style-type: none"> *手遊び（毎日・内容は月替わり）*わらべうた（週1回） *FuBoretch/ストレッチ（週2回） *読み聞かせ（月2回）*ベビーマッサージ（月1回） *助産師による計測と相談（月1回）*誕生会（月1回） *はじめてのひろば（月1回）*保健師のいるひろば（月1回） *すくすくタイム（週2回） <ul style="list-style-type: none"> ・発達を促す遊びの提案、相談会、相互理解 *Tomony ・父親、家族まるごと、育児参加促進プログラム 1。子育てに役立つ講座などを中心に、子ども理解、不安の軽減、などを目的とする。 ・不定期のプログラム <ul style="list-style-type: none"> *コンサート *アートイベント *離乳食講座 *幼稚園ママの話を聞く会

＊保活の基礎知識 ＊パパの子育て応援講座 ＊親の癒しプログラム（ヨガやマッサージなど）

・新しいプログラム

＊Tomony Fun Day（月1回）

・父親、家族まるごと、育児参加促進プログラム2。みんなで楽しんで、子育て仲間を増やそう！継続プログラム。

「はじめてのひろば」は父親も一緒に参加することも増えてきたので、さらに利用につなげ、土曜日の「Tomony」で家族同士の仲間づくりに発展させる。

泉文庫

泉文庫は、日常のひろばや一時預かりで利用するほか、月に2回の読み聞かせにも活用。赤ちゃんの興味を引くような絵本や、大型絵本も足しながら、絵本の世界を保護者も含めて一緒に楽しめる工夫を続ける。また、手軽に手に取れる保護者向けの本や外国籍の利用者のための外国語の絵本のコーナーもある。文庫をきっかけに、家庭でも絵本に親しんでもらいたい。

子育て相談

日常の愚痴や小さな不安や悩みは、スタッフや利用者みんなで、その場の話題にしていくことも多い。

私たちが専門家と顔の見える連携関係をつくることで、保育士との連携はもちろん、助産師、保健師、栄養士、作業療法士などの専門家への橋渡しとなり、つなげていきたい。

個別に相談したい場合は、玄関やカフェコーナー、時には公園も活用し、その都度話しやすい場で他者から自然に見えるようにしている。

加えて、オンラインで相談を受け付け、相談室が無いと受けにくかった相談業務についてカバーする。

知り得た情報には、スタッフ全員が知る、ひろばスタッフだけが知る、コアスタッフだけが知る、というランク付けで個人情報を守る。

利用者の活動

「ゆずっちょ」（譲ります、下さいの掲示版）で、不要になった子育てグッズを譲ったり、購入前に希望を出したりできる。直接ひろばで会って受け渡しをすることで、利用者同士の交流も生まれているので継続する。

特技を持つ利用者、いい空気感のキーマンとなりうる利用者、ときには馴染みにくい利用者の特技なども活用して、地域情報の収集や、講座などに展開させていく。利用者がサービスされる側だけでなく、主体となって活躍し、ともに大切な場をつくっていけるようにしたい。

公園の活用

緑ボランティアとの連携により、貴重な自然環境を守り、子育てに活用していく。季節を感じ、のびのびと遊べる公園は、子どもたちの原風景となる。

子どもたちが水やりや花植え体験もできる。柿の実、栗、くるみ、かりんなどを拾い、イメージを膨らませて遊びがひろがる。

16時に閉所後16時半まで公園用のおもちゃを使えるようにしている。「終わりだからさようなら」ではなく、一旦、公園遊びをする時間を作ることで、子どもたちが満足し、納得して帰っていけるよう工夫している。また、この時

		<p>間帯は小学生がいたり、公園のみの利用者がいたりするので、交流が生まれる。</p> <p>こらぼのコミセン親子ひろば</p> <p>中町集会所で月2回開催の親子ひろばに出張。すくすく泉のノウハウを活かして親子が安心して楽しく過ごせる場を展開している。「すくすく泉」の周知・利用にもつながり、逆に「すくすく泉」利用親子の行き場の選択肢を増やしている。コミセンを利用する活動を通して、地域の方、他団体との繋がりも深めることができる。（武蔵野市共助による子育てひろば事業）</p>
2	一時預かり事業について	<p>「一時預かり」は、今まで通り以下の3点をとって運営する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：命を守り無事にお返しする。 2：安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。 3：安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。 <p>今後も、ひろば内で行うオープンな一時預かりの特徴を生かし、スタッフ同士声掛けをしながら、支援を続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺には、不定期に短時間子どもを預かってもらえる人間関係がない、地方出身や核家族の親が多く存在する。コロナ禍で、気軽に預け合いが難しくなっている事情もある。 <p>「すくすく泉」は、親の傷病（感染症疑いの体調不良を除く）、冠婚葬祭、第二子出産時、または精神的肉体的負担の解消のためにも、早朝～夜間、土曜日、宿泊を含め、安心して短時間から預けられる場として、通常、200人／年ほどの登録がある。Withコロナの状況下、新しい利用者も増えはじめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばで過ごしながらかかりの様子を見たり、預けた経験のある人の声が聞けたりすることが、利用への心理的ハードルを下げる。理由を問わない一時預かりは「何か深い事情がある」時も、「リフレッシュ」時も、同じように利用ができることで、親が負担感を増幅させ、虐待等につながってしまうことを未然に防ぐ役割を果たす。 ・一時預かりの利用をベースに、親同士の預け合いにも発展し、大変そうなときに助けを求めることや、逆に手を貸すことが自然の姿として見られるようになり、また、ひろばでは、自分の子以外の子どもと遊ぶ利用者の姿も普段の光景になった。 ・一時預かりに預けられている状況は、子どもが不安定になりやすい。スタッフは自身の子育て経験を活かし、母親のように寄り添うことを基本としている。他人の子どもを預かるという重大な責務を負うべく、情報交換、内部・外部の研修の受講、保育士の資格取得などを大事にしている。 ・同居家族の体調不良による利用制限を撤廃し、来所する親子が健康な状態なら受け入れる。
3	小規模保育事業について	<p>保育所保育指針に基づき作成した園独自の『全体的な計画』を土台として、0～2歳児10人という少人数の良さを活かした異年齢保育。</p> <p>人権の尊重、個人情報の保護、説明責任、苦情解決に真摯に取り組み、「ひろば」との連携による子育て支援、職員の質の向上をはかる。</p> <p>基本理念・基本方針</p> <p>～一人ひとりの健やかな成長発達に寄り添う保育～</p>

●一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。

子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身ともに健康で、未来をつくり出す力の基礎が育つよう、チームワークを活かして保育する。

●乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。

人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、今を豊かにするために保育士と保護者が連携していく。

●地域から生まれ、子どもを中心に地域がつながり、支えあう関係づくりをめざします。

地域の自然や様々な物的・人的資源、文化を保育に活かす。また、保育を通して多世代がつながりを深め、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していく。

- ・子ども一人ひとりがありのままの自分を出せる安心感を土台に、発達に応じて様々に表現し、自分で決めることを大事にしたい。保育者は子どもの心の声をよく聞き取れるよう努める。そのためにも、否定語、禁止語、命令語を極力使わず、共感的、応答的にかかわる保育を更に深めていきたい。

安定した保育

- ・A型移行に伴い更に安定した保育体制をつくっていく。保育に入る常勤保育士4人を中心にし、様々なスタッフがかかわる良さも活かす。また、効率的な運営のためのシステム作りをしていく。ひろばや一時預かりスタッフとの声かけもしながら、すくすく泉全体として更によいチームワークにする。
- ・情報共有と保育の質の向上のため、日々の10分ミーティングや日誌の共有、ミーティングや個人案会議などの活用、年間を通したテーマを決めて、具体的な場面での子どもの読み取りや自分のかかわり方について、スタッフ同士で様々な意見を出し合って、保育の軸を共有していく。
- ・専門性の向上では、内部研修と並行して、外部研修への参加も増やし、受講した内容をミーティング等で共有して様々な分野の最新の知識を学んでいきたい。
- ・アドバイザーの先生による月1回の視察と「ひろば」と合同の現場会議を通して、子どもの成長について継続的に読みとりとかわりを重ね、自分たちの保育についても見直してきた。更に、「ひろば」や「一時預かり」の様子も共有し家庭で保育する保護者の現状も視野に入れてすくすく泉としてのスタンスを共有して、日々の保育につなげていく。
- ・家庭との連携において、これまでも日々の保護者との情報共有や成長を喜びあう関係づくりに努め、更に保護者同士のつながりを育めるようにする。情報発信として、おたよりや保護者むけの図書「おうち文庫」を充実させたい。
- ・発達上の課題や家庭での保育の課題をかかえた子どもは、いろいろな機関や家庭との連携を密にとり、情報の取り扱いに注意しながら進めていく。

特色ある保育

- ・「一時預かり」や「ひろば」が併設された複合型の保育施設の特色を活かして、地域の親子や中高生、高齢者やボランティアという多世代との触れ合いの機会を増やして、保育の専門性を活かしながら、子育てをみんなで応援する地域づくりに貢献していきたい。今後広げていきたい活動は以下の7点である。

		<ul style="list-style-type: none"> * 保育園の保育士がひろば親子向けに行う講座 * ひろば主催の講演会やイベントなどに保育園保護者が参加 * 土曜日のひろばを保育園親子が利用することでの地域親子との交流 * 赤ちゃんとのふれあい体験（プレママやその家族対象） * ミニイベントや日常を通した園児と地域の親子とのかかわり * 元保育士による人形劇団の活躍や、利用者との交流ができるプログラム。 * 中学生の職場体験を受け入れ、多世代交流の中で、子どもへの理解を深めたり、母親と話すことで、育てること、自分が育てられたことなど振り返るなど、様々なことを感じ考える機会になるよう工夫をしていく。 <p>・ すくすく泉公園の豊かな自然環境を生かした保育</p> <ul style="list-style-type: none"> * 感覚が敏感なこの時期に五感を通して自然を楽しみ、不思議と出会う体験、命を知る経験をさせていく。 * 歩行を確立する時期に全身を使っていろいろな場所をたくさん歩き、体幹や足腰が強くなるようにしていく。 * 発達に応じて個々に身体を動かすことの楽しさや挑戦していく楽しさを感じられるようにし、意欲、粘り強さ、自信などが育つようにする。また、トライ&エラーの中で自分の力を知り安全を考えて遊ぶようになる。 <p>・ 近隣保育園との連携していく。</p> <p>まちの保育園吉祥寺、武蔵野赤十字保育園とは、コロナ禍の中にあっても、できることから連携していきたい。また、すくすく・泉公園でも色々な園と一緒に遊ぶ機会を良さとして活かす工夫をしたい。</p> <p>コロナの状況によっては、合同の研修会を復活し、地域で子どもを育てていく関係づくりをしていきたい。</p> <p>※保育内容の詳細については、『全体的な計画』『年間計画』に記載予定</p>
4	上記3事業の相互の関わり方や、その他について	<ul style="list-style-type: none"> ●3事業のどれを利用しても、利用者に運営理念が伝わる一貫した対応をする。 ●スタッフが資質・課題解決力向上のために、学びや話し合いの機会を内・外にもつ。専門家による講座や連携園との研修会、ミーティングにおけるワークショップ等。また、外部有料研修に参加の場合の補助金制度を設けている。 ●3事業は分離して運営されているものではなく、それぞれの専門性を軸にしながら交流の機会を持っている。それぞれの利用者に有益な支援を複合的に考え実行している。 ●常勤スタッフが必要に応じて運営会議をし、全体を考えながら3事業を進めていく。 ●日常的に3事業の利用者が公園を利用している。そこに近隣の保育園や小学校、また地域の方々も加わり幅広い多世代交流がうまれている。 ●3事業、もしくは2事業と一緒に企画し準備して進めるプログラム。 ●3事業のスタッフは、基本的には各事業に専従しているが、研修やミーティングへは、事業を越えての参加が可能である。お互いにいつでもサポートができるスタッフを増やすことで、何かあっても支え合える体制をつくっていく。 ●防災・防犯については3事業が連携した訓練を実施し、問題点の共有と対処方法を話し合うようにしている。

5	<p>地域参加・参画方法 (中高生や高齢者の事業参加や、地域ボランティアのイベント参加、地域住民が団体の会員となり保育を担う等)</p>	<p>この施設は、「子育てを中心に 地域みんなで 未来をつくる場所」であると考えている。</p> <p>「人格形成に特に大切な乳幼児期の子育てを、親だけに負担をかけるのではなく、親子を地域みんなで支えていく。そうして育つ子どもたち、安心して子育てをした親たちが、やがてこの地域の未来をつくる」との考え方のもと、様々なかたちで地域の力をとり入れていく。</p> <p>令和5年度も以下のような仕組みを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ボランティア「葉っぱさん」(地域のどなたでも、自分のできること、したいことを登録でき、それに合わせてこちらからお手伝いをお願いする) 読み聞かせ・手作りおもちゃ作成・お花の入れ替え・草むしり等 * 中高生ボランティアの受け入れ * 中学生の職場体験の受け入れ * 公園利用者(高齢者、小学生など)との積極的な関わり * 誰もが参加できるオープンなプログラム(季節の行事、コンサート等) * 高齢者と子育て世代の交流の場「昔遊びの会」 * 地域民生委員のコーラス * 孫を連れての、祖父母の利用の積極的受け入れ * 地域の人がスタッフになる * NPO 会員や寄付等で運営を支える * 緑ボランティアに参加して公園を整備する * 地域のお祭りに、お菓子のふるまいや、お楽しみ企画で参加 <p>もともと泉幼稚園跡地を利用するにあたり、多くの地域の方の思いや願いがあった。その方たちは、あたたかく、時に大変厳しい目で、この施設がどうなっているのかを見守り、支えようとして下さっている。</p> <p>私たちは主に親子ひろばを活用し、こうした地域の方たちとのつながりを大切に深めることにより、多くの親子を自然に地域につないでいくという役割を担っている。</p> <p>●新型コロナウイルスについては、With コロナの段階に入り、地域との関わりも緩和の方向が見えてきた。薄くなってしまった関係をまたつくっていききたい。</p> <p>地域子育て応援マーク活動</p> <p>会員、理事会、スタッフが一緒に進めているボランティア活動。 子育てを見守る側がつけるマークを継続して地域に広める。 チャーム、シール、缶バッジなど。</p> <p>オレンジリボン活動</p> <p>オレンジリボン活動に参加。虐待防止のキャンペーンへの協力とともに、配布するマスクに、ひとりで悩まず話してほしいというメッセージシールを貼って渡す。</p>
---	---	---

3 施設内容・内部体制

NO	項 目	内 容		備 考
1	開 設 時 間	小規模保育事業	7:30～19:00(基本保育時間 8:30～17:00 の中で 8 時間を個別契約) ※満 1 歳児未満は 18 時まで	基本時間内のうち 8 時間での短時間保育、それ以外は延長保育となる
		一時預かり事業	基本 8:30～17:30 早朝 7:00～8:30 (コロナ休止中) 夜間 17:30～22:00 (～19:00) 宿泊 22:00～7:00 (コロナ休止中)	利用時間は最長 6 時間 感染状況により預かり時間を緩和する予定
		ひろば事業	10:00～16:00	
2	開 設 曜 日	小規模保育事業	月、火、水、木、金	保護者会などは休日に開催することもある
		一時預かり事業	月、火、水、木、金、土	
		ひろば事業	火、水、木、金、土	
3	休 日	小規模保育事業	土、日、祝祭日、12/29～1/3	
		一時預かり事業	日、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
		ひろば事業	日、月、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
5	施設利用 対象者	小規模保育事業	市内在住の生後 57 日目から 3 歳まで(当該年度において 4 歳に達する児童を除く)	
		一時預かり事業	市内在住の 6 ヶ月から小学 6 年生まで	利用登録が必要
		ひろば事業	主に 0 歳～未就学児の親子(妊婦含む)、孫育ての祖父母等、保護者と一緒の子ども	利用登録が必要
6	利 用 料 金	小規模保育事業	小規模認可園の短時間保育の基準による	<ul style="list-style-type: none"> ●昼食代、おやつ代、夕方の捕食代、ミルク代が含まれる ●短時間認定外の延長は 15 分 200 円 ●前々日降園時以降の急な時間延長は割増料 100 円/15 分 ●希望者オムツ代日額 200 円 ●布団カバー、毛布カバー、防水シーツ、実費 ●写真はルクミー (ICT システム) から注文し実費
		一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー利用 入会登録料 2,000 円 早朝: 7:00～8:30 500 円/30 分 通常: 8:30～17:30 400 円/30 分 夜間: 17:30～22:00 500 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 250 円/15 分 早朝・夜間 300 円/15 分 ●ビジター利用 入会登録料 無料 早朝: 7:00～8:30 600 円/30 分 通常: 8:30～17:30 500 円/30 分 夜間: 17:30～22:00 600 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 	

			・延長（遅刻）料金 通常 300 円/15 分 早朝・夜間 50 円/15 分 ●宿泊 22:00～翌 7:00 メンバー 9,000 円 ビジター 10,800 円 ・0歳時加算 1,000 円	
		ひろば事業	無料	カフェ、おむつ実費。イベント参加費、講習会参加費などは必要に応じて徴収する
7	職員配置 (資格の有無も記載)	小規模保育事業	0歳児3人に保育士1人 1～2歳児6人に保育士1人 保育士資格のある補助者1人 ※小規模保育事業（A型）の規定による	子どもの人数による変則シフト制
		一時預かり事業	子どもの人数に応じて、保育士または所定の研修を受けたスタッフを含む2人以上（0歳児1対1、1歳児以上 子ども1～3人：大人2人以上、子ども4人～5人：大人3人以上）	
		ひろば事業	ひろば専任スタッフ常時2名以上	(イベント時必要に応じて増員)
8	スタッフ賃金 (時給等)	すくすく泉施設長	すくすく泉施設長(常勤) 月 160 時間 267,100 円	・専門職手当 10,000 円
		経理事務	事務員(常勤) 月 160 時間 240,900 円	・専門職手当 10,000 円
		小規模保育事業	保育施設長(常勤) 月 160 時間 251,400 円 常勤保育士(月 160 時間) 主任 240,900 円 副主任 235,700 円 リーダー 232,600 円 225,300 円 非常勤保育士 7:30～8:30 1,465 円/時 8:30～17:30 1,172 円/時 17:30 以降 1,232 円/時 栄養士 7:30～8:30 1,266 円/時 8:30～17:30 1,172 円/時 17:30 以降 1,266 円/時 基準保育士・調理員 7:30～8:30 1,158 円/時 8:30～17:30 1,072 円/時 17:30 以降 1,158 円/時	・専門職手当 10,000 円 ・給食責任者手当 8,000 円

		一時預かり事業	保育士有資格者 7:00～8:30 1,266 円/時 8:30～17:30 1,172 円/時 17:30～22:00 1,266 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊 資格無し 7:00～8:30 1,158 円/時 8:30～17:30 1072 円/時 17:30～22:00 1,158 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊	・シフト組手当(1,200 円/1 日) ・シフト確定後のキャンセルは 60% 支給
		ひろば事業	ひろばリーダー(常勤) 月 160 時間 232,600 円 保育士有資格者 1,172 円/時 10:00～16:00 1,072 円/時	
	備考	社保／有給 処遇改善・キャリアアップ等による臨時支給		
9	年間開設 予定日数	小規模保育事業	247 日 (2023 年度)	
		一時預かり事業	285 日 (2023 年度)	
		ひろば事業	252 日 (2023 年度)	加えて月曜日に講座あり。 (年間 3～4 日を予定)
	年間利用者 数／1 日平 均利用者数 (見込)	小規模保育事業	10 人	
		一時預かり事業	5 人	
		ひろば事業	25 人	